

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	J Aあつぎ本所	階数	地上4F
建設地	厚木市水引2丁目113番1外6筆の各一部、116番2	構造	S造
用途地域	防火・準防火地域、商業・準住居地域	平均居住人員	150人
気候区分		年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年5月15日
敷地面積	4,270 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社創和加藤設計
建築面積	1,683 m <sup>2</sup>	確認日	2014年5月15日
延床面積	5,804 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社創和加藤設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	<p>外壁に高耐候性の石目調材料を採用し、環境及び町並みへ配慮。高遮断熱性サッシや全照明LED、全熱交換機、開閉可能な天井までのサッシ、トップライトにより、空調負荷や節電、換気及び自然採光等に配慮した省エネルギー建築を実現。執務環境及び機能面の向上を考慮し、リフレッシュ出来る喫煙室や休憩コーナーを設置。また、将来的な執務空間の変更にフレキシブルに対応出来る、内装(OA707、可動間仕切等)及び設備を備える。</p>	
その他	0	
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議室等に遮音等級40dB以上の間仕切壁を採用。</li> <li>高遮断熱サッシ(Low-E複層ガラス)を採用。</li> <li>F かつ低VOC建材を採用。</li> <li>給排気口の離隔距離を6m以上確保。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆとりのある執務スペース。(1人当たり: 11.27m<sup>2</sup>)</li> <li>リフレッシュスペースの充実。(喫煙室+自動販売機+休憩コーナー)</li> <li>更新間隔が長い材料、高耐候性材料等の採用。</li> <li>節水型器具の採用+配管系統の区分の考慮。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議室等に遮音等級40dB以上の間仕切壁を採用。</li> <li>高遮断熱サッシ(Low-E複層ガラス)を採用。</li> <li>F かつ低VOC建材を採用。</li> <li>給排気口の離隔距離を6m以上確保。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆとりのある執務スペース。(1人当たり: 11.27m<sup>2</sup>)</li> <li>リフレッシュスペースの充実。(喫煙室+自動販売機+休憩コーナー)</li> <li>更新間隔が長い材料、高耐候性材料等の採用。</li> <li>節水型器具の採用+配管系統の区分の考慮。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地周囲に緑化による緩衝帯を設け、自走式駐車場を完備。</li> <li>石目調外壁による良好な景観形式</li> <li>雨水を宅内浸透処理することによる地下水の保全。</li> </ul>	
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>PAL低減率 = 16.1%。</li> <li>トップライトによる自然光の利用。</li> <li>LED照明の採用により消費電力の削減。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水型器具の採用+配管系統の区分の考慮。</li> <li>再利用可能部材の採用。(OA707+可動間仕切+移動間仕切)</li> <li>汚染物質含有材料の使用回避。(内外装材等)</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水型器具の採用+配管系統の区分の考慮。</li> <li>再利用可能部材の採用。(OA707+可動間仕切+移動間仕切)</li> <li>汚染物質含有材料の使用回避。(内外装材等)</li> </ul>	
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な数の駐輪場、駐車場(管理用車両含む)の確保。</li> <li>駐車場への導入路を考慮し周辺環境へ配慮。</li> <li>「光害対策ガイドライン」「広告物照明の配慮事項」の過半に適合。</li> </ul>	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
**Q: Quality** (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される